

大学のあるここ太原市での生活(11月レポート)

山本 裕之

大学のある山西省太原に来て3か月が経過しました。今回はここ太原での生活に関して報告します。

私の中の中国に対するイメージは30年前の中国個人旅行と日本のニュースメディアなどから得た知識で作られています。今回、太原で3か月を生活して、そのイメージはことごとく変わるようになりました。中国は広く中国という主語で語ることはできません。また中国は時代の変化が激しいので来年には変わるかもしれません。ここ太原のいま2023年11月末時点での個人的な感想を報告します。

結論から先に言ってしまうと、生活に何の不満もありません。埼玉で生活するのとなにかかわらない、太原は大変暮らしやすいところです。空は青い、緑も多い、山もある、水道水はきれい、空気もきれい、街の食堂も誇りをもって食事を提供している。ぼったくりもない、価格は掲示されていて細かい価格交渉の必要もない。支払いはケータイの電子決済なので現金のやり取りもいらない。言葉の面でも話されている言葉は基本的に標準語なので学習している言葉が使えます。ここ太原で留学生活を送れて本当に良かったと思います。

ただ一つだけ苦言を言わせていただくと、学外を歩くときは自動車、電動自転車に常に注意を払わなければならないことでしょうか。無灯火、逆走、距離感の違い、想定外の動き、日本の「交通ルールはこうあるべきだ」は全く通じない状況で、細心の注意を払って事故にだけは合わないよう気を付けています。

あとトイレがない問題がありました。これはお腹が強くない私だけの悩みかもしれませんが、トイレがない。小さな食堂ではトイレはどこですかと聞いてもトイレはないよと言われることがあり、また公衆トイレも多くありません。日本のコンビニでトイレを利用させていただける環境は本当に素晴らしいと感じます。以下、それぞれ項目に分けて報告します。

(気温)

9月～11月 この3か月で埼玉(川口市)の夏秋冬を過ごしたといった感じでしょうか。11月下旬、朝は零度以下で、日中も池の水は凍っています。川口の

冬の一番寒い時期と同じぐらいの感じですが、ただ、埼玉の方が寒く感じます。北海道の人が東京は寒いと感じるのと同じで、寮の部屋の中、教室、食堂、とにかく建物の中に入ると 24 時間暖房がきいていて温かいのです。外出時さえしっかり厚着をすれば快適です。これから 12 月～2 月とさらに寒くなる本格的な冬がどのぐらいの寒さになるのか楽しみです。

(天気と空気)

これは中国渡航前のイメージと全く違ったものの一つです。空は抜けるように青い、排ガスをまったく感じない。空気が汚いと思った事はありません。あまりの空の青さに、最初のころは授業がない午後は思わず旅行気分で見に行ったりしていました。

日本にいるときの中国のイメージは PM2.5 とか空は暗く、空気が汚いイメージでしたが、まったく違うものでした。年が明けて黄砂の時期になるとまた変わってくるかもしれません。これからどう変わっていくか楽しみです。

田舎だからという声が聞こえてきそうですが、第一回レポートでも報告しましたが、ここ太原はさいたま市の 3 倍の規模がある省都です。交通量も多いです。しかし、自動車もバイクもほぼ電化しており排ガスの影響はないと思われます。このあたりは強かに電化を推し進められた中国の強みかもしれません。

(緑豊か、山、川、水)

学内の広大な敷地には緑が多く、いろいろな鳥も見かけます。素晴らし環境です。学内ばかりでなく街に出ても街路樹や公園など緑が多い。

太原は左右を山に挟まれ、中を「汾河」という川(荒川より大きい)が流れる都市です。日本のメディアで見ていた中国は水不足というイメージもここ太原では違いました。

ミネラルウォーターを買うという生活ではなく、寮の水道水で歯磨きをし、浄水器を通した水やお湯を飲むという生活です。

(買い物)

来た当初はどこにどのようなお店があるのかわからないため、日用品を買うのも一苦労でしたが、3 か月も経つと大きなスーパーはどこ、無いものはネット通販で購入、また留学生の友達からどこの店は肉が新鮮だとか、この店が安いとかの情報ももらえるようになりました。物価は野菜や基本食材、果物はすごく安いですが、ちょっとした嗜好品は日本と変わらない値段です。直近では

自炊を始められるぐらいに慣れてきました。

(交通、移動)

30年前の中国旅行の移動の苦労を考えると、これもガラリと変わっていました。ケータイのアプリさえ使えば、バス、レンタサイクル、地下鉄、汽車、高鉄(新幹線)、はては白タクまで移動には苦労しません。電子マップで自分の位置や路線が分かるので迷子になることもありません。ただし、ケータイ電話の電池が切れたら何もできません。出かけた先で充電残量が少ないのに気づき、目的を達成せずそのまま帰った事もありました。それ以来、とにかくケータイ電話の充電だけには気を使っています。

(娯楽)

ここで生活していること自体が体験型娯楽施設にいるようなもので、すべての体験が娯楽と言ってもいいかもしれません。テレビなどは無いですが、ラジオで地元の番組を聞くなど楽しんでいます。また、映画館に映画を観に行く事も中国語の勉強にもなるし文化も学べるだろうと何度か挑戦してみました。

特別な娯楽と言えば、学内で開催された各国から集った留学生が踊り、歌う”迎新晚会”は2時間の素晴らしい舞台でした。同じクラスの中にも民族衣装を着て踊る子がいて、これぞ留学生活という感じでした。

ネットのニュースやコメントを見ると、両国とも相手国に対するマイナスイメージが目につきます。人々はそこで子供を育てしっかりと生活をしている。ニュースの情報だけで頭でっかちになってはいけない。留学して現地を見て自分事として考えると、人と人との直接の交流がいかに大事かを感じます。



教室のある3階から眺めた景色

空は青く緑が多い
高層住宅が並んでいる

日本の東北、関東、甲信越を合わせた
広さの山西省の首都だけあって
太原は東京23区と同じ規模

国際交流学院が開催した” 迎新晚会”



インドネシア、ラオス、タイ、モンゴル、フィリピン、アフガニスタン、アルゼンチン、などなど各国からの留学生が民族衣装で歌や踊りを披露。2時間素晴らしいステージを楽しんだ。



レンタル自転車

30分ぐらい乗っても2.5元(50円)ぐらいどこにでも乗り捨てられているので便利だ。

市内バスは1元(20円)

交通費は本当に安い。



寒い冬に向けて通販で買ったロバのコート

88元(1,800円)

ボタンの穴が途中までしか開いていない、すぐ取れそうなど問題はあったが、修繕して使用。

温かく零下でも快適に外出できる。

「住」「食」については次回報告したいと思います。

以上